

教職員自己紹介

朝廣 雄一 (あさひろ ゆういち)

社会情報システム学科・助教授

まずは経歴を簡単に述べようと思います。生まれは鹿児島市ですが、鹿児島市に居住していた期間は 10 年程度です。他にも鹿児島県内の数カ所を転々とし、鹿児島県内に居住していた期間が約 15 年です。幼稚園・小学校・中学校・高校の期間を鹿児島県内で過ごしました。大学入学と同時に福岡市に来て、それからゆうに 12 年以上が経過しています。鹿児島県人である胸を張って言えるのも、残り数年でしょうか。最終学歴と職歴は以下の通りです。



1998 年 4 月: 九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻博士後期課程を修了する。

同年 5 月: 九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻の助手となる。

2000 年 4 月: 組織名称変更に伴い、九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学部門の助手となる。

2002 年 4 月: 九州産業大学情報科学部社会情報システム学科助教授となる。

というわけで、(情報科学部の他の多くの先生方と同様に)情報科学部の開設にあわせて、本学へやってきたわけです。余談ですが、長い名称の組織に縁があるようです。

私の専門は、情報科学の中の計算量理論という分野になります。コンピュータに問題を解かせる際に、どの程度の計算量が必要かについて考察したり、実行時間・必要な記憶容量などに関して性能が良い手法を開発したりしています。研究内容に関する話は、またいずれ本誌に書く機会もあることでしょうかから、ここでは詳しくは書かないことにします。

九州大学で助手として働いていた期間は、学科・専攻で利用されるコンピュータの管理・運用業務、C や Java といったプログラミング言語を用いた演習、FPGA ボードを用いてコンピュータの設計手法を学ぶ実験等を担当していました。また、九州大学工学部電気情報工学科主催の中学生を対象とした体験理科教室で、コンピュータネットワーク体験のスタッフも努めていました。

担当講義は、離散数学 II (1 年後期)、離散数学 II 演習 (1 年後期)、計算の複雑さとオートマトン (2 年後期) です。その他、情報科学基礎演習などの演習科目も担当しています。離散数学 II・同演習では、情報科学における基礎的な学問である、数理論理とグラフ理論という 2 つの内容を扱っています。計算の複雑さとオートマトンは、2 年生対象の科目ですので 2002 年度はまだ開講していませんが、コンピュータを利用する場合の計算や難しさとは何かということ、コンピュータの理論モデルを扱いながら学ぶ科目です。また講義以外では、情報科学部内のコンピュータの運用管理スタッフも努めています。

石田 健一 (いしだ けんいち)

社会情報システム学科・助教授

山口で生まれ、九州大学に入学時に福岡にやってきました。九州大学では情報工学科に在籍していましたが、九州産業大学情報科学部に見られるようなカリキュラムではなく、電磁気学や回路なども学びました。大学 4 年生の卒業研究以来、電磁波の利用技術に関する研究に従事しており、それが専門です。卒業後は、大学院修士課程、博士後期課程へと進学し、平成 9 年 3



月九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻博士後期課程修了 (博士学位取得) しました。平成 9 年 4 月からは、九州大学において助手として 5 年間勤務し、平成 14 年 4 月の情報科学部開設と同時に、九州産業大学情報科学部社会情報システム学科助教授として勤めることになりました。新校舎で新入生と共に新しい分野に取り組み、教育と研究を基本から実践して、地域と情報科学の発展を目指したいと思っています。

講義は、赴任初年度より、情報科学基礎演習、解析学基礎、解析学基礎演習、線形代数、線形代数演習を担当し、主に数学の基礎教育にあたっています。基礎科目は敬遠されがちですが、スポーツでいうと筋トレにあたります。高度なプレイをするとき基礎体力が重要なように、先端分野の習得には重要ですので、軽視せずに取り組みましよう。

現在の研究テーマとして、やさしくいうと、イメージング法の開発に興味があります。直接観測できない情報を観測できる情報から再構成して可視化する方法です。医療診断の CT はその応用例です。電磁波と情報科学との両面から研究活動を続けたいと思っています。詳しくは、本誌中の記事をご覧ください。

休日は、ジョギング、ピアノなどを楽しんでおります。